

令和6年度もいよいよ終了が近づいてきました。生徒の皆さんは、この1年間をどのように振り返っているでしょうか。人権学習では、3学期は学年ごとに各クラスでホームルーム活動をおこないました。その感想を紹介しますので、読みながらぜひ、自分自身の成長を感じてみて下さいね！

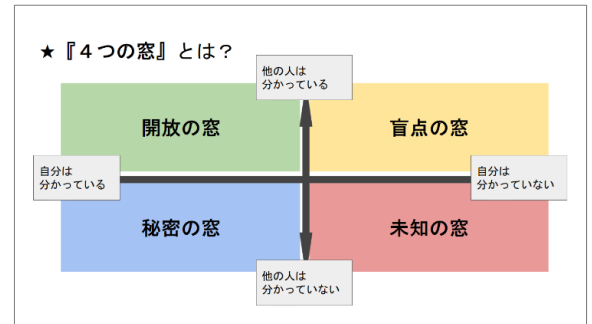


1・2年生『人権に関するホームルーム活動』

【1年生】学習テーマ：『自己理解と他者理解～私ってどんな人？～』

1年生は、自分を4つの面からとらえた「ジョハリの窓[※]」を活用し、自己理解を深めました。それに先だって、私たちの「**短所**」は「**長所**」としてとらえ直すことができることに気づき、自他を肯定的に受け止めることで、前向きに人間関係を築くことができるようになることを学びました。

※アメリカの心理学者ジョセフ＝ラフトとハリ＝インガムが考案



＜皆さんの感想より＞

- 今日の活動を振り返って気づいたことは、短所でも言い方を換えれば長所になることです。自分の持っている短所を肯定的に思い、長所に変える考え方が大事だと思いました。
- 今日の授業を受けてみて、「自分にこんな一面があるんだ」と知らないことも知れて良い機会になりました。今までは否定的に自分のことを考えることが多かったので、今日の授業を思い出して、自分自身を肯定的に考えられるようになりたいです。
- 友だちの良いところを書き出すことで、改めて、「こんなところが優しい」、「こんなこと頑張ってるな」と考えることができ良かったです。
- 自分が思っていた以上に周りの人から長所を出してもらって、少しだけ自信がついた。この長所を忘れずにしていきたい。まだ自分も周りの人も知らない「未知の窓」というものがあると知って、不思議だと思ったし、気になった。
- 今日の学習を通して改めて自分の事を理解し考えることで、今まで気付かなかったことや今までの自分を再確認することができた。自分だけに限らず、友だちの長所を考えることがあまりなく、理解していても知らない面が多くあり、改めて友だちについて考え、知る機会にできました。授業であったように、長所と短所は表裏一体という考え方をこれからも持ち、普段の生活でも役立てて、人と良い関係を作っていきたいと思いました。

【2年生】学習テーマ：『コミュニケーションにおける「きく」力～まずは、ちゃんと、聴く～』

2年生は、最終学年を前に、コミュニケーションスキルを高めることを目的として、「きく」をテーマに学習をしました。いくつかのワークを通して、「3つのきく」を体感できましたね。

● 3つの「きく」

- ① **聞く** =hear …無意識のうちに、音声が耳に入ってくる状態のこと
- ② **聴く** =listen …意識的に、のうどう能動的に耳を傾ける（けいちよう傾聴する）こと
- ③ **訊く** =ask …相手の発言に興味を持ち、積極的に質問をすること



訊くはより高度な「きく」と言われますが、「訊く」ためにも、「まずは、ちゃんと、**聴く**」ことが必要です。このときのポイントが、『without ジャッジメント』で、『相手の意図』を考えながら**聴く**、ということでした。相手との対話においては、共感できない考えであっても否定から入らないことが大切です。コミュニケーションは“キャッチボール”。ボールをキャッチする側にも技術が必要ですから、対話における「きく力」も、磨いていきたいですね。

＜皆さんの感想より＞

- ☞ 「聞く」は、自分が話していても、相手がきいてくれない気がしました。「聴く」は、目を見てきいてくれていて、会話している気持ちになりました。「訊く」は、積極的に質問してくれて、自分に興味を持ってくれている気がして、話しやすく感じることができました。
- ☞ 私はコミュニケーションが得意な方だと思っていましたが、今回の学習で3つの「きく」という言葉を学び、私はいつもどうだったかな？と考えるきっかけになりました。色々と考えた時に、私は一方的に話をしては変えて、話して、だったなと考えさせられました。もっと相手の話も聴けるようにしたいと思いました。
- ☞ 私は今年度、友人関係等で悩むことがたくさんあり、違った反応をすると相手を感じる気持ちはまったく違ったんだな・・・と思いました。話し手が話す内容や話し方でもいざこざは起こるけど、聞き手も、相手の目を見て興味を持ち、積極性が大切なんだということが分かりました。一見気を遣いすぎて面倒くさく感じるけど、話し手も聞き手も良く相手のことを理解してコミュニケーション取ることでより良い関係を築くことができるんだと思いました。
- ☞ 今日の学習で、聞き手の態度や話の聞き方など、少し変わるだけで全然違うし、話していて楽しいなど感じ方が変わってびっくりしました。でも逆に、少しの意識で話す相手の気持ちを変えられるなら、いつもよりもう少しだけ相手へ興味をもち、共感したり、肯定的に話してみようと思いました。自分が理解できないことでも、相手にはどんな意図があって発言しているのか、よく考えたいと思いました。
- ☞ 相手の話に対して、ただ共感するのは違って、否定せず一つの意見として一度受けとめたうえで質問を返す、ということが大切だと気付きました。たとえ自分の意見が相手とは異なっても、さらに会話が広がっていくことが分かりました。今回の授業を受けて意識してみようと思うことがまた増えたので、明日から挑戦したいです。



*今年度最後の『なりすな』でした。この便りが、生徒の皆さんが「人権」について語り合うきっかけになりますように。